

審議会・部会意見

1 次期計画の構成等について

(1) 全体構成

- ・根本的に変えてしまうと、現在の課題が見えなくなってしまうので、大きくは変えずに、マイナーチェンジや基本軸にしながら少しずつ更新の方がふさわしい。
- ・従来の計画を基礎にしつつ、統合的な取組をしっかりと共通の軸として打ち出していき、加えて新しい視点を持つ。そして実際の取組を強化する、そうした見せ方をしていくのではないかな。

(2) ウェルビーイング（進行管理（主観的指標））

- ・右肩上がりでない定常社会で、心や文化を大切にする。
- ・長期に渡って住んでいる人たちと、深みに至るまでに京都を去ってしまう人がいる中のウェルビーイングとは何なのかというところが、イメージしづらい。皆さんにとってのウェルビーイングとは何なのかを見せていけるよう、作っていくと良いのではないかな。
- ・京都市の環境基本計画の特徴として、主観的要素を評価要素に入れており、ウェルビーイングの向上という形で、滞在される方も含め、コミットしていただく場を作っていくために、若者や流動的な方々をターゲットにした、ワークショップ等を含めた何らかのご意見を聞く機会をつくって反映させていく必要がある。

(3) 計画期間

- ・新しい時代の環境を盛り上げていく考えでいくと、計画年次が 2030 年までというのは少し早い。

(4) 方向性（環境・経済・社会の統合的解決）

- ・2050 年はこのような社会といった全体の方向性や、人、社会、経済との関わりではこのようなイメージといったことを書いて、それらが分野別の計画に入っていくのではないかな。
- ・環境を活かした取組が、社会問題（少子高齢化等）の解決につながる。

2 現行の施策体系について

- ・循環フェスでは、衣類のリサイクル等を積極的に取り組まれているのが最近の特徴だと思う。アップサイクルの取組が浸透するように、古着に対してポジティブに評価する動きについても着目し、後押ししてほしい。
- ・使用済てんぷら油の利用の方がガソリン燃料と比較して値段的にはかなり高くなるが、バイオ燃料ということで活用されている。世の中では航空燃料としても使われているが、京都市がこれからどう進めていくのか、あるいは値段が高くなるからやめる等、そういった方向性も示すことができれば良いのではないかなと思う。
- ・マイクロプラスチックは先進的な調査が行われていて、京都市の河川を通じた大阪湾のプラスチックの流出も明らかになっている。研究結果などを踏まえ、次期環境基本計画でしっかりと傘をかけて、様々な取組の方向性や施策を示していくことで、次期計画の厚みを出していけると良いのではないかなと思う。

3 新たな観点について

(1) 人、事業者の観点

- ・子どもから高齢者まで、海外からの留学生も含む人的資源の分厚さ。
- ・大学生などの若い世代が自分たちで動ける環境・しくみづくり。
- ・滞在者と共に、環境が作り出す京都の魅力を一緒に見出し高める。
- ・滞在者に対しては、「これをしてはダメです」というよりも、「この行動をしてくれたあなたは、京都を守るためにこういう貢献ができる、これが守られる」といったことを写真等で見せるだけでも全然違う。
- ・環境対応する企業や、環境に取り組むベンチャーを応援する機運醸成。
- ・交流機会の創出、活動支援、環境学習の推進。

(2) 土地の観点

- ・空間的な多様性のゾーニングをして、特長を活かして伸ばす。
- ・地域の特性が共有されることによって、どんな取組ができるのか、何を守るべきなのか、何をしたら貢献できるのかということが可能性として予測できる。
- ・各地の特性を配慮指針で明らかにして、次はマップみたいなもので充実させていく。あるいは、様々なデータベースをポータルサイト化していくことによって見えてくる。そういうものがあると実は京都の文化が京都の環境に根差しているという、バイオカルチュラル（生態文化）という世界的な取組の先進的な事例となってくる。そこを支えるのがコミュニティあるいは様々な環境保全活動であるということを打ち出せる。その部分を横断軸として打ち出したうえで、分野別計画があるといった見せ方は良いのではないか。
- ・「生態文化配慮指針」など、もう少し柔らかい言葉で、土地利用等、例えば森林等、そういうものを分けて示していくこととし、それらをポータルサイト等でまとめていく、そのように全部統合していくことで、社会と経済とか統合できていくような方向性ということも考えていければ。